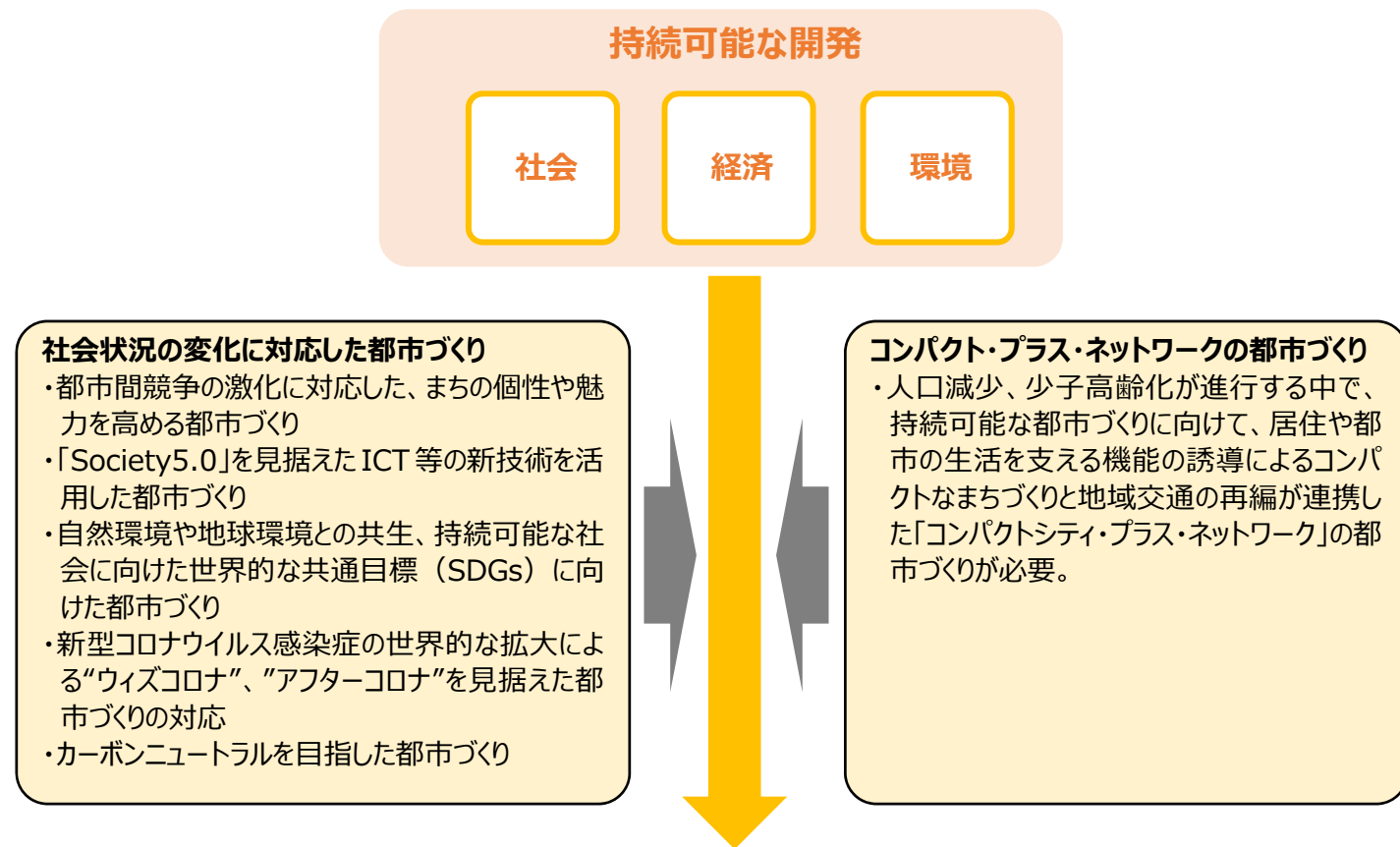


## 持続可能な都市づくりに向けた課題の整理（案）

### 1. 持続可能な都市づくりに向けた課題の整理

持続可能な開発を構築する「社会」「経済」「環境」の3つの要素\*をもとに、「社会状況の変化に対応した都市づくり」、「コンパクト・プラス・ネットワークの都市づくり」を踏まえ、持続可能な都市づくりに向けた課題を整理する7つの視点を設定しました。

※1992年にリオデジャネイロで開催された国連環境開発会議（地球サミット）で「アジェンダ21」が採択され、その10年後の2002年にヨハネスブルグで開催された「持続可能な開発に関する世界首脳会議」で採択された「持続可能な開発に関する世界首脳会議実施計画」において、持続可能な開発の3つの構成要素として「経済開発、社会開発、環境保全」が明記されています。また、2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」で掲げる17の目標は密接に関連しており、経済、社会、環境の3つの側面のバランスのとれた、持続可能な開発を目指していることが示されています。



### 持続可能な都市づくりに向けた課題の分析

#### 上位・関連計画の整理

立地適正化計画は、都市全体の観点から、公共交通施策、商業施策、住宅施策など多様な分野の計画との連携を図ることが求められているため、上位計画・関連計画のうち、立地適正化計画の検討において踏まえるべき事項について整理。

- |                         |                            |
|-------------------------|----------------------------|
| ① 滝川市総合計画（2012～2021）    | ⑧ 滝川市住生活基本計画（第二期）          |
| ② 滝川市人口ビジョン             | ⑨ 滝川市強靱化計画                 |
| ③ 第2期滝川市まち・ひと・しごと創生総合戦略 | ⑩ 滝川市地域防災計画（2020年度版）       |
| ④ 滝川市都市交通マスタープラン        | ⑪ 第2期定住自立圏共生ビジョン           |
| ⑤ 滝川市公共施設マネジメント計画       | ⑫ 滝川市緑の基本計画                |
| ⑥ 滝川市公共施設等総合管理計画        | ⑬ 第7期滝川市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 |
| ⑦ 第2期滝川市小・中学校適正配置計画     | ⑭ 滝川市農業振興地域整備計画            |

#### 現行計画マスタープランの検証

現行都市計画マスタープランの中で位置付けられている全255施策のうち、立地適正化計画の検討で特に関係する93の項目について、各課の照会により検証を実施。各施策について、成果、達成度、改善点・課題、今後の方向性について検証。

達成度	評価	構成比
◎:達成	40	43.0%
○:継続中(整備中)	19	20.4%
△:継続中(調査・計画段階)	0	0.0%
▲:未着手	27	29.0%
×:中止	7	7.5%
合計	93	100.0%

#### 現状把握・モニタリング

滝川市が抱える課題の分析、解決すべき課題の抽出のため、客観的なデータに基づき、人口・土地利用などの8つの項目について分析。

- |      |        |        |        |
|------|--------|--------|--------|
| ① 人口 | ② 土地利用 | ③ 交通   | ④ 経済活動 |
| ⑤ 財政 | ⑥ 災害   | ⑦ 都市機能 | ⑧ 都市施設 |

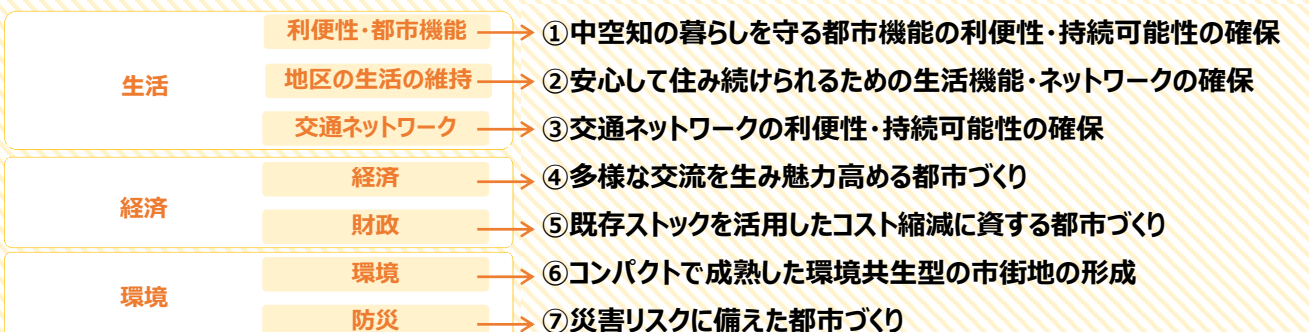
#### 他都市との比較

国土交通省「都市構造評価ハンドブック」で示される評価指標と、国土交通省「都市モニタリングシート」を使用し、滝川市と同規模の人口規模（3万～5万）の都市と比較。滝川市における強みと弱みを分析。

#### 【評価指標の分野】

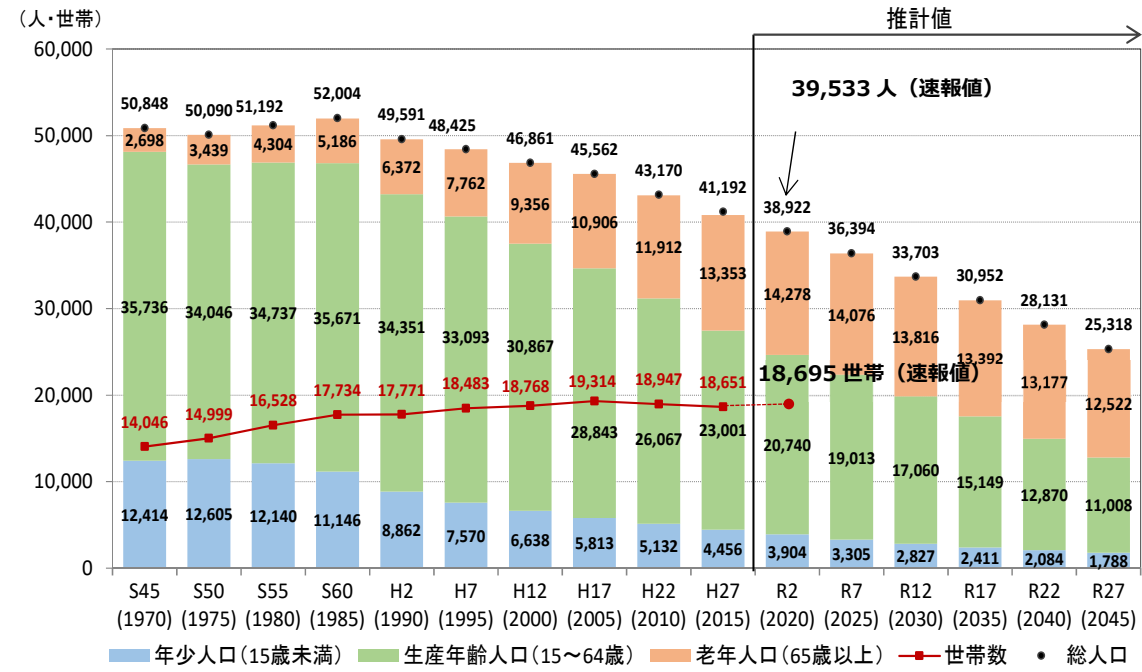
- |             |               |              |              |
|-------------|---------------|--------------|--------------|
| ① 人口密度（2指標） | ② 生活利便性（15指標） | ③ 健康・福祉（5指標） | ④ 安心・安全（3指標） |
| ⑤ 地域経済（5指標） | ⑥ 行政運営（5指標）   | ⑦ エネルギー（1指標） |              |

### 持続可能な都市づくりに向けた課題の整理



## 2. 現状と将来予測

### ■ 人口推移と将来予測



H27年(2015年) : 41,192人

↓ 15,000人以上減少

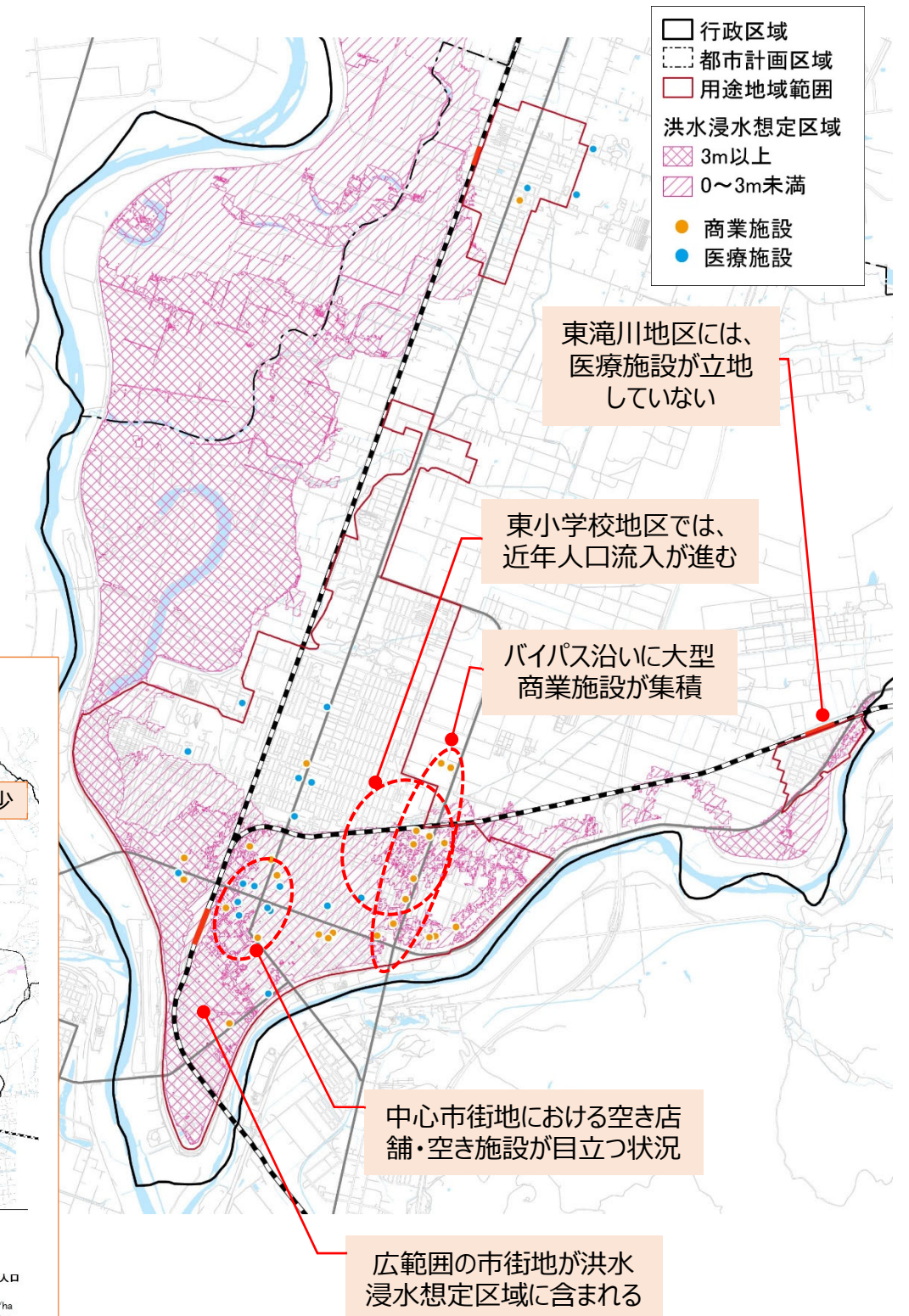
R27年(2045年) : 25,318人

DID地区の人口密度は、同規模都市  
(人口3.5~5万人)と比較して低い。

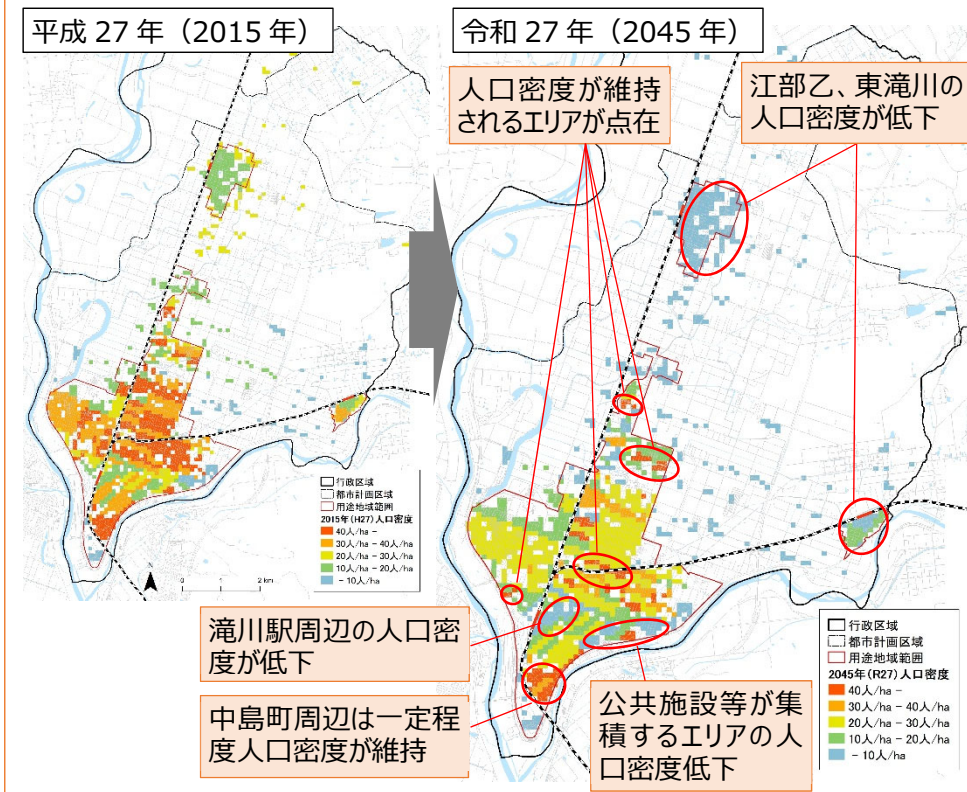
H27年(2015年) : 27.2人/ha

R27年(2045年) : 16.7人/ha

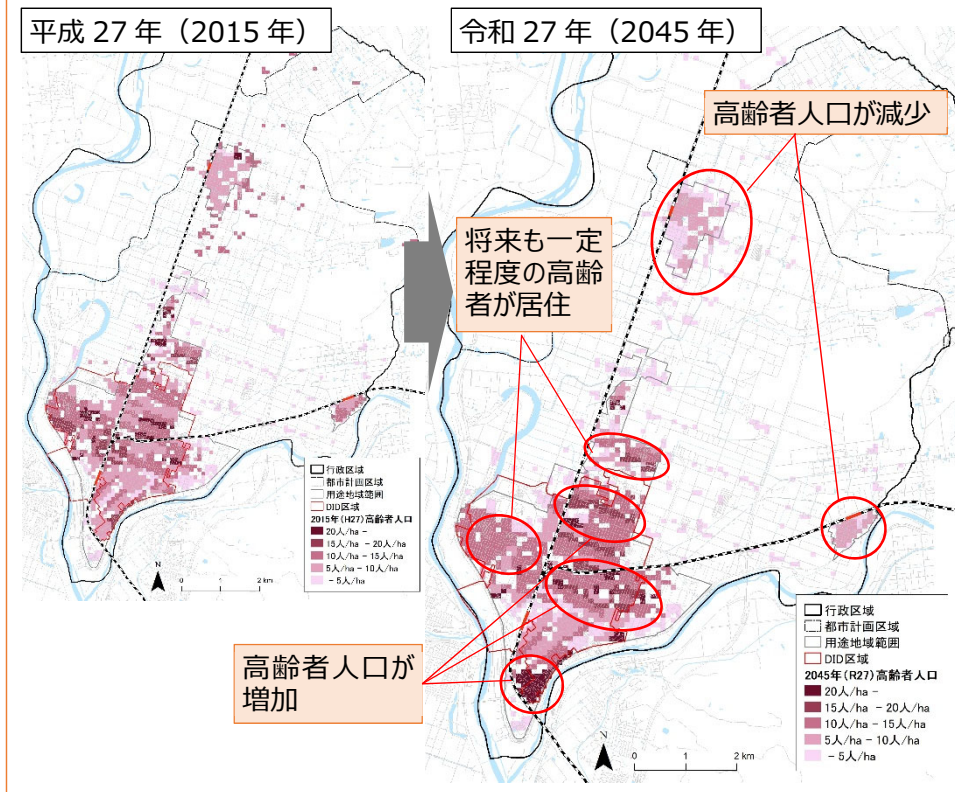
	総人口 (人)	DID地区		
		人口 (人)	面積 (ha)	人口密度 (人/ha)
登別市	49,625	37,774	950	39.8
北斗市	46,390	29,668	646	45.9
音更町	44,807	36,436	869	41.9
滝川市	41,192	28,972	1,067	27.2
網走市	39,077	27,267	891	30.6
稚内市	36,380	29,544	842	35.1
伊達市	34,995	21,943	499	44.0



### ■ 2015年2045年の人口の推計



### ■ 2015年2045年の高齢者人口の推計

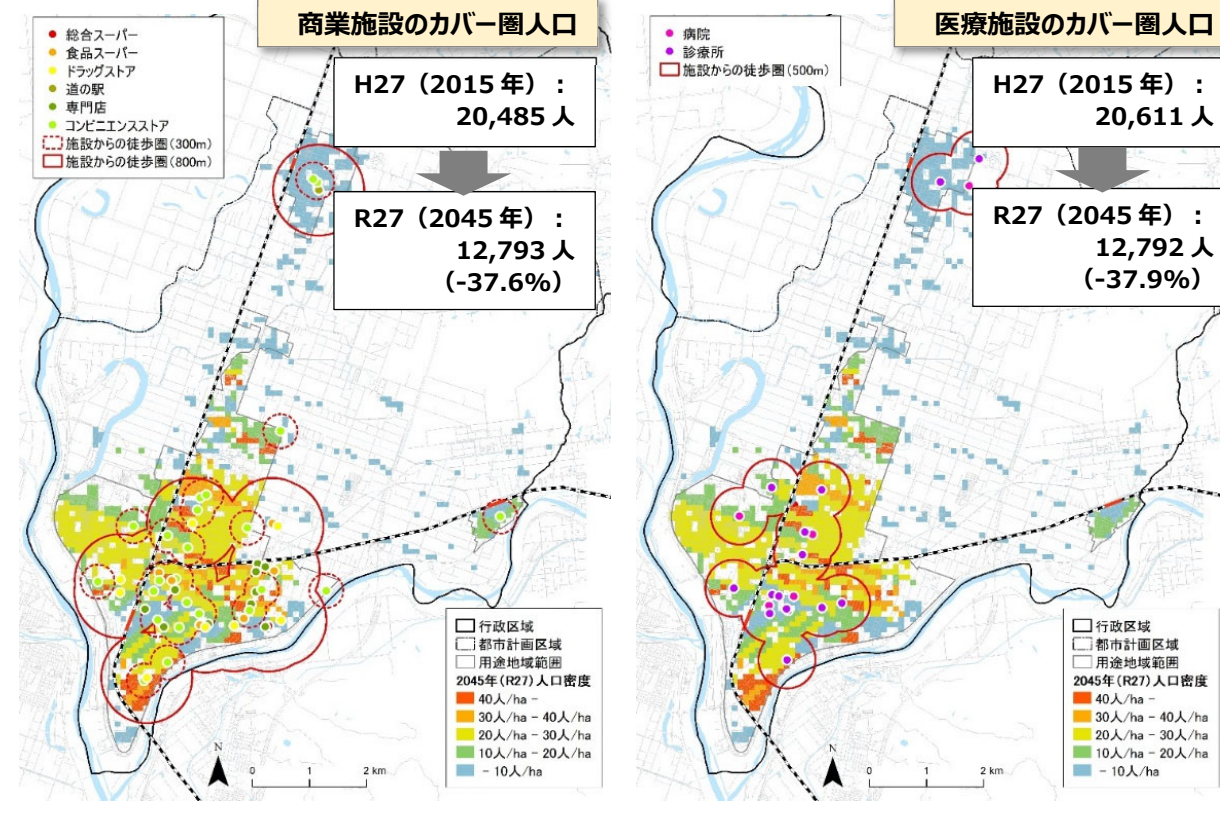




4. 人口減少の進行に対し、何も対策を講じなかった場合におけるまちへの影響

生活利便性の低下

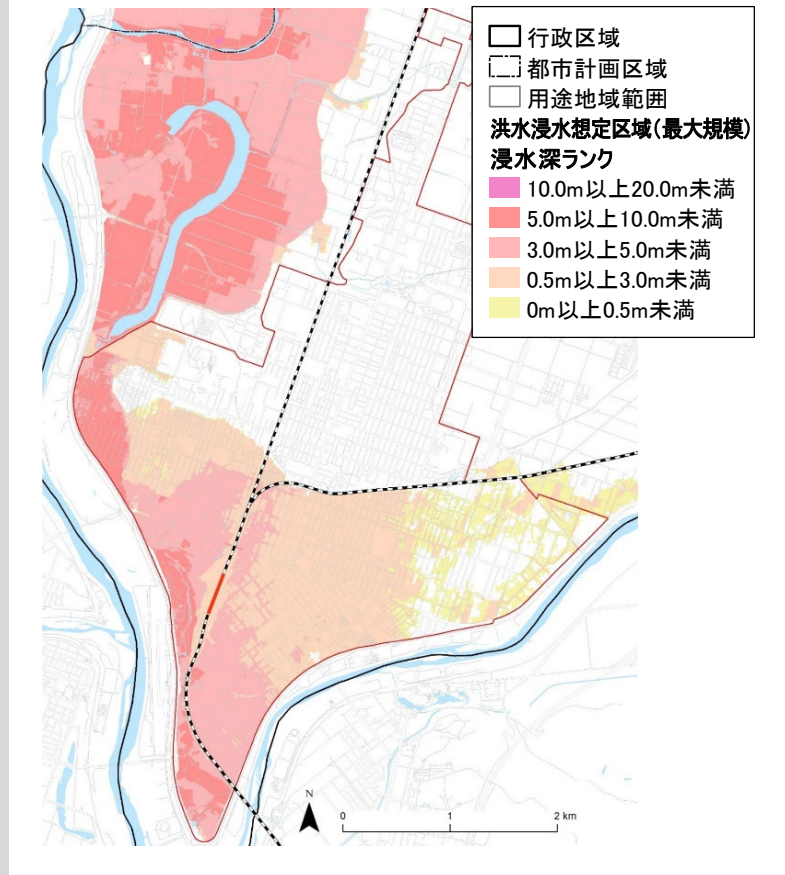
人口減少により低密度で分散した市街地により、カバー圏人口が減少し、各種生活サービスの非効率化  
 商圈人口の減少、サービスの非効率化により、各地区にある商業施設、医療施設等が撤退  
 → 生活利便性の低下



公共交通利用者数の減少により、交通事業者の経営悪化、バス路線・便数等のさらなるサービス水準の低下  
 → 生活利便性の低下

被災可能性のある市民の割合増加

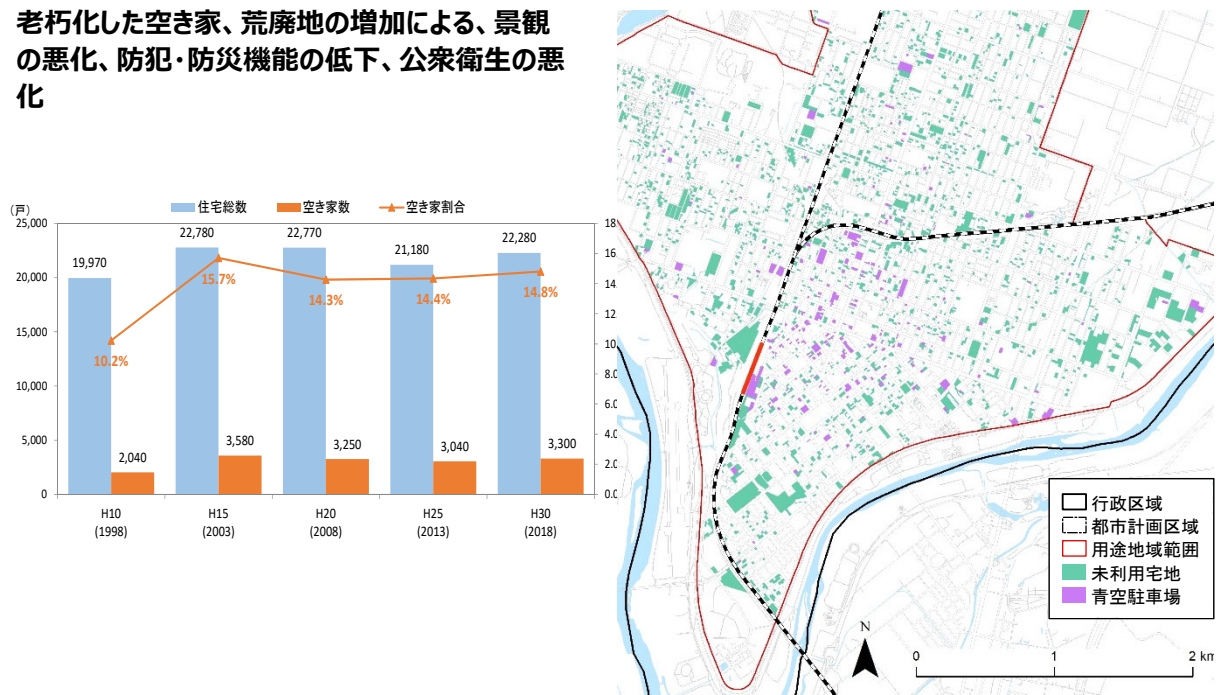
浸水リスクが高いエリアにおける居住が増えた場合、被災する可能性のある市民の割合が増加



➡ 以上の生活利便性の低下により、さらなる人口流出が進行する悪循環へ

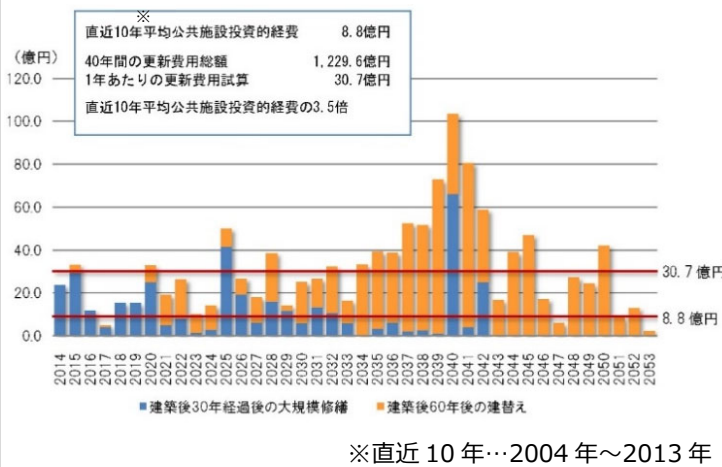
空き家・荒廃地の増加

老朽化した空き家、荒廃地の増加による、景観の悪化、防犯・防災機能の低下、公衆衛生の悪化



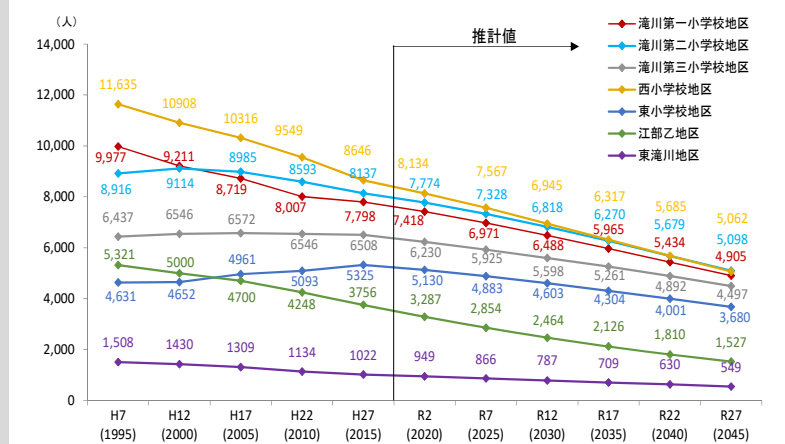
厳しい財政状況の深刻化

施設の老朽化による公共施設・インフラの維持管理コストが増加し、さらに維持困難となる  
 人口、事業所の減少によりさらに地価が低下し、税収入がさらに減少



コミュニティの維持が困難

人口減少により、各地域のコミュニティの維持が困難となり、安心した地域社会の維持が困難  
 (孤独死の増加、地域防災力の低下など)

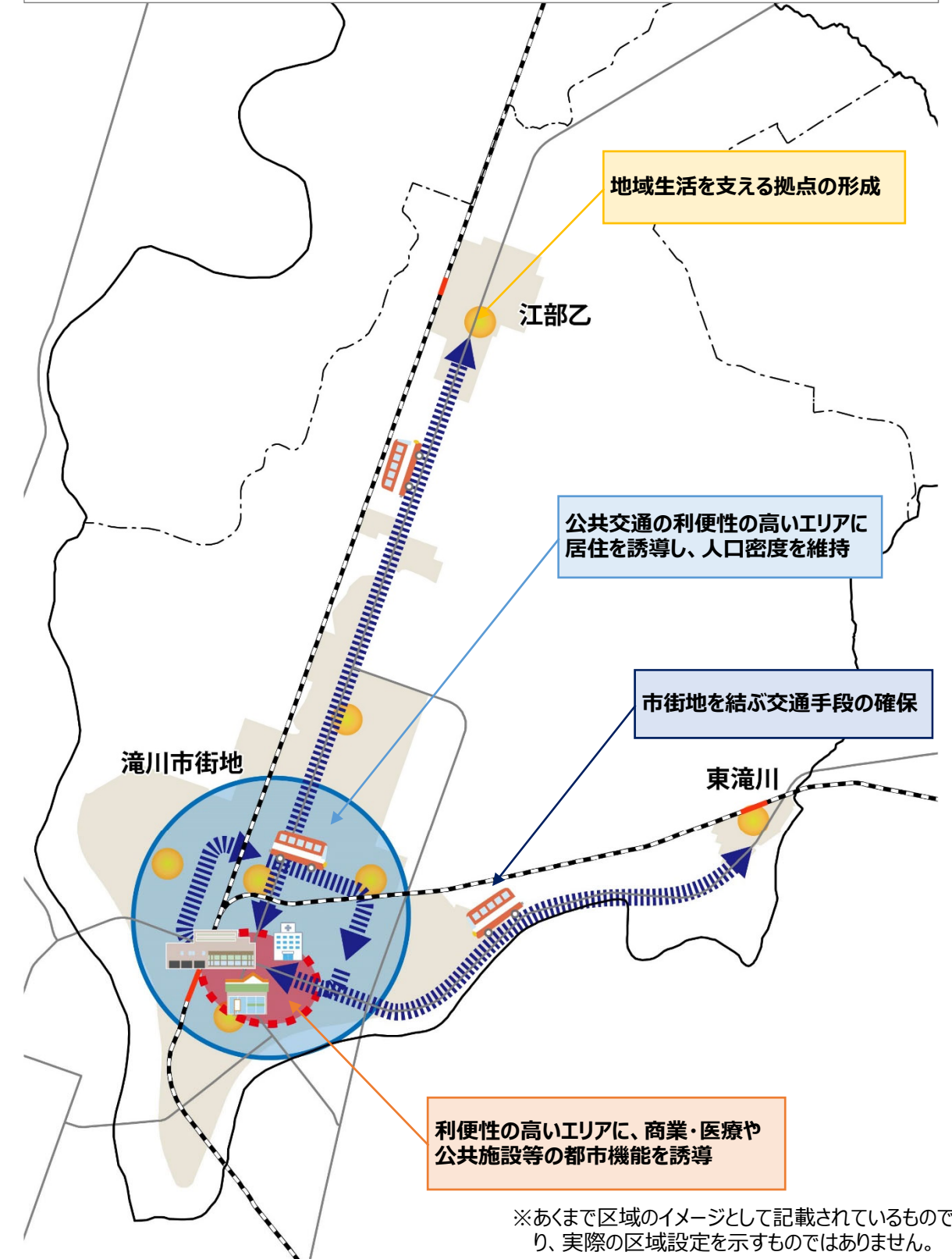


このまま対策を講じないままですと…



Q：このようなことが将来起きてくると思われませんか？ 例えば、どのような事態が起こってくると困りますか？ 今から考えておくべき由々しき事態は何だと思いませんか？

コンパクト・プラス・ネットワークの都市づくりへ



Q：将来の不安・問題に対して、立地適正化計画をたてていくことが有効だ（期待できる）と思いませんか？ 有効だと思う点、有効ではないと思う点を教えてください。さらに言えば、もっと〇〇するような計画になると良いというご提案（痛みを持ちながらも滝川らしさを失わない真に望む町の姿を描く）がございましたら是非教えてください。

5. 持続可能な都市づくりに向けた課題とまちづくりの方針

